

作成日：2018年6月14日

学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校
2018年度 学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：藤田 直人

1. 開催日時 2018年6月14日（木） 13:00～15:00
2. 開催場所 東京メディカル・スポーツ専門学校 校長会議室
3. 参加者 学校関係者評価委員
高井 豊 業界関係者（医療法人社団森山会リハビリテーション統括部長）
牛込 公一 卒業生代表（有限会社ティーン・ティーン 代表取締役）
濱田 恵美 保護者代表
深澤 昇 高校関係者（正則学園高等学校 元学校長）
沼倉 英理 近隣関係者（行船管理有限会社 副社長）
藤野 浩一郎 業界関係者（一般社団法人TMG本部 人事副部長）
宇梶 義男 業界関係者（ムーヴアクション株式会社 代表）

学校側参加者

関口 正雄	東京メディカル・スポーツ専門学校	学校長
松川 勝吉	東京メディカル・スポーツ専門学校	事務局長
渡辺 三郎	東京メディカル・スポーツ専門学校	教務部長
藤田 直人	東京メディカル・スポーツ専門学校	学生サービスセンター長
前川 雄大	東京メディカル・スポーツ専門学校	広報センター長
東 隆浩	東京メディカル・スポーツ専門学校	キャリアセンター長

4. 会議の概要
 - (1) 学校長挨拶
 - (2) 委嘱状交付
 - (3) 平成29年度自己点検・自己評価結果報告
及び平成30年度重点目標の説明
 - (4) 質疑応答

議事

(1) 学校長挨拶

日頃、本校の学校教育にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。また本日はお忙しい中、学校関係者評価委員会にご参加いただきましてありがとうございます。最初に皆さんの机に置かせていただいた資料について触れたいと思います。リクルートの「カレッジマネジメント」という雑誌に2030年の高等教育はどのような特集があり、「職業教育の方向性」とうことで私が書いた資料になります。そこでは、労働力減少について触れております。日本の人口減少という問題もありますが、大学の卒業生は、毎年50から55万人と言われております。しかしこのうち10万人前後が無業者であるということです。国からの補助金が、私立大学が4000億円、国公立大学が1兆円であるのに無業者がこれほどいるのはおかしいと総務省から指摘されています。専門学校は国と地方自治体と合わせても100億円くらいであり、専門学校の卒業生は20万人位です。社会との接続というか、税金を払うという人を生み出すという力で考えてみれば大学のコストパフォーマンスはるかに専門学校に劣る。それから、労働力という点から言う社会人の学び直し（リカレント教育）についても触れており、人材の流動性を促し、今いる職場よりさらにキャリアアップした職場で働けるような教育にも専門学校は力を入れているところです。もうひとつは、留学生です。「技能研修生」を20万人位受け入れているが、しっかりした技能を身に付けさせられている企業はごくわずかである。それに対して専門学校が受け入れている留学生は、5万8千人ほどである。日本語をある一定レベル勉強をして、特定の職業に付くための知識と技術を学び日本で就職し、その後働いた経験を母国に伝えるような流れを作ることは、専門学校の団体としても考えているところであります。しかしリカレント教育や留学生もすべて国は、大学を中心に考えてしまうので、うまく職業教育の体系が作れないでいる。こんなことを書いていますので、ご一読いただければと思います。

毎年の繰り返しにはなりますが、職業実践専門課程とは国が定めた認定要件をクリアした学科を文部科学大臣が直接認定するというものになります。その要件の中に、この学校関係者評価委員会の開催が入っています。なぜ職業実践専門課程という制度ができたかと言うと、専門学校の質の向上という観点から専門学校の優良な部分に条件を作ってクリアした学校を中心に専門学校の振興を図っていこうというものであります。行政からの支援では、例えば今年度東京都は2億円の経常費の助成を付けました。東京、大阪など10の都道府県で職業実践専門課程の限ってこの助成をする動きになっています。また、今話題になっている高等教育の無償化ついてですが、住民税の非課税世帯については、認められていてさらに世帯収入により拡充されることになりそうです。学校側の要件としましては、理事の2割以上が外部の人で構成されていること、実務経験のある教員の配置、成績管理の徹底・公表、財務を公開しているかなどがあります。専門学校には、自己点検自己評価が義務付けられておりこれも条件になります。その他、職業実践専門課程も条件にしようという動きもあります。それは、専門学校の「質の向上」に熱心な学校であるという証明にもなります。ただ、そのなかには公開しなくてはならない情報を公開していないなど不備もあり、昨年度は文部科学省が全部の課程をフォローアップし、都道府県を通じて指導し

ました。しかし、いまだに問題のある60課程残っています。このような学科（学校）にどのように対応するかも課題であります。また今年度は、さらに厳しい調査をする方向であります。例えばこのような委員会に委員の方が出席されているかまた学校側からの資料提供がされ議論されているか、つまり実質的に機能しているかどうかをエビデンスとしての議事録を提出させ、さらにヒヤリング調査をすることになっています。今後、考えられることは専門学校の中でもそこまで厳しいハードルを掲げられるとこの職業実践専門課程にこだわらない学校も出てくることが考えられる。その点については、文部科学省も予測しており全体の2～3割程度になったとしても、専門学校というのは職業実践専門課程を中心に動いていることを世の中に知らしめていく考えだそうです。

国としてもこの職業実践専門課程をより機能する方向に力を入れているところであります。今回の学校関係者評価委員会もそうですが、我々もしっかりとした運営をしたいと考えております。本日もよろしくお願いいたします。

（松川）本日の目的ですが、お配りしているA3版の「学校関係者評価委員会 会議資料」に、本日の会議を受けて1～3の評価付けていただきその右にご意見を記入していただきたいと思っております。また事前にお送りした「自己点検・自己評価」を見て、ご意見等もご準備いただいている委員の方々もいらっしゃると思っておりますので、ぜひ活発な意見交換ができるような会議にしたいと思っておりますのでご協力よろしくお願いいたします。

（2）委員紹介（各委員のご紹介）

（3）H29年度自己評価内容とH30年度重点目標説明

・学校概要の説明 学校の設立、学科、組織目的の紹介

・平成29年度自己点検評価内容（松川事務局長）

1. 教育理念・目的・育成人材像

職業人教育を通じて社会に貢献する・・・学園のミッション

建学の理念（実学教育・人間教育・国際教育）

4つの信頼（学生保護者、高等学校、業界、地域）

育成人材像 学科毎に養成目的、教育目標を設定

特色ある教育活動への取組み

3つのクロス運営組織（スポーツ部・プロフェッショナル部・キャリア教育部）

学科横断プログラム（AT専攻・エクステンション講座・トレーナークラブ）

（松川）【1 教育理念・目的・育成人材像】については、我々としては3の評価を付けました。もしご意見などがあればお願いします。

2. 学校運営

意思決定システム 方針の共有と行動の徹底をする 判断基準の明示
情報とコミュニケーションを共有する
運営会議ですべて戦略を決定する（週1回開催）
その他部署別会議などを実施
学園本部の機能紹介・・・PC管理、給与に関すること

3. 教育活動

入学前や卒業後教育にも力を入れている

3年5年後の姿・・・養成目的

卒業時の姿・・・教育目標

職業人教育＝専門職業教育+キャリア教育・・・人間教育を行うことを大切にしている。

（松川）【3-10-2】には評価が2を付けています。学園グループでは卒業発表などをやっている学校が多い。

例えば本校では、理学療法士科が福祉と医薬で3校合同症例研究会などはやっているが、まだまだやれることがあるのではないかとということで2を付けた。

（牛込）東京医薬などは、大々的に発表会を実施している。学校で必要と考えれば、ぜひ実施した方がいいと思う。他学科の学習内容なども知ることができ、またチームとしての力を知るなど得ることも多いと思う。いろいろなもの感じながら学べるチャンスを作ってあげられたらいいと思う。

（松川）その他に、トレーナークラブなどでは年に何回かブースを出して、春高バレーなどにもブースを出している。そのような経験を題材にして発表会を実施している。また、今年度から柔整と鍼灸は外部での臨床実習が可能になったので、それをきっかけに何かできればと考えている。

（渡辺）医療に関しては本格的な施術ができないので、トレーナー現場活動等における学習を発表できればと思う。実際先方との反省会なども実施しているので、材料はあると思う。

（関口）柔整の接骨医学会、鍼灸だと鍼灸学会などでは先生方が盛んに研究発表している。その学校の学生などには、先生が積極的に発表をさせている。またスポーツ分野における研究など新しいことに取り組む、先陣を本校が切れればと思う。

（松川）本校でも理学療法士科と鍼灸師科の教員が学生をモデルにして、現在研究を進めている。徐々にではあるがそんな流れもできてきている。

（関口）今、トレーナーの仕事だけで生活できるかというところはまだ無理がある。そのこ

とを改革するために、TSRの卒業生などが現場でどのような状態なのか把握し、彼らがトレーナー活動だけで生活できるようにバックアップする意味で研究活動をやらなくてはならない。合格率や学科のマネジメントに目がいってしまうが、これからはそんなところにも取り組まなくてはと思う。

4. 学習成果

卒業生197名 就職希望者179名(90.9%)

内定者179名(100%)

専門職就職率171名(95.5%)

(松川) 専門職就職率について東さん説明してください。

(東) 学校で学んだ資格を活かして就職しているかを表した数字になります。又離職率とは、卒後1年以内に職を離れてしまった場合、離職者とカウントします。ただし1年以内に専門職に再就職した場合は、離職者としてカウントしていません。ちなみに昨年度は、8名の離職者がいましたが再度、学校で就職を斡旋して8名全員が再就職をしています。

(松川) 離職率については、28年度3.3%だったのである程度成果がでていていると思っています。就職希望をしていない学生がいますが。

(東) 今年度に関しては、国家試験に不合格の学生がすべてです。勉強に集中したいということなので就職は希望しないということです。ただしアルバイトなど少しでも収入を得たいという学生には、就業先を紹介しています。

(松川) 次に資格取得についてですが、昨年度はここに大きな課題があります。

柔道整復師科は、全国平均を大きく下まわってしまいました。鍼灸は、はり・きゅうともほぼ全国平均でした。理学療法士科は、I部について全国平均を割ってしまいました。ここ数年、国家試験の難易度も上がってはい、いいだけでは答えが出ないような傾向があります。

このように昨年度、かなりの学生が試験に落ちてしまったのでその対策を今年度新しい取り組みをしています。その仕組みを渡辺さん説明してください。

(渡辺) 今までは、数名の不合格者でしたので聴講生などとして対応していました。今年度は、人数が多く全員が合格できるような新たな仕組みを作りました。5月から7月の3ヶ月を3科合同で解剖学・生理学に特化し、また講師も受験に強い先生にお願いして講座を実施しています。8月以降は、学科別に実施しさらに講師も選んで実施していくことにしています。

(松川) 今は、毎日曜日に科目に選んで実施しているところになります。

(関口) うちの学校の弱みは、設立が新しいところにあります。柔整・鍼灸については、厚生労働省のカリキュラム検討委員会がコアカリキュラムを変更したところですが、歴史のある学校ですと、カリキュラムがこれからどのように変わっていくか

を学術的に見通せる職員がいたり、その委員が入り込める専門性を持った職員がいる。これからのカリキュラムに合わせた受験指導動向について、方策を中長期的に立てられる強みがあります。本学園も国家試験対策センターがありますが、受験指導だけでなく、学術的な意味でコアカリキュラムがどのようになるかを行政も含めて把握をしていけないと考えています。

(松川) 次に中途退学についてです。4, 5%と昨年度より少し上がっていますが、全体的には、この数年減少傾向にあります。

(関口) 東京都の柔道整復学校の平均10%程度で鍼灸の学校の平均3%程度です。これらと比べれば本校は、低く抑えられていると思います。

(松川) 【4 学修成果】の4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているかについては、評価2を付けています。いちど学校を離れると、なかなか情報が入ってこなくなり活躍も把握できなくなります。

(関口) 接骨院などの不正請求が起こった問題で、不正請求をする人の年齢は、高い人が多いという。学校が卒業生に対してどこまで責任を持つのかというのは、難しい問題です。一人前になってからまで責任は負えない。こんな議論をする上でも、前提として卒業生の初期キャリアを学校が把握することは、必要なことだと思う。離職率調査は、出来ているのでそこをテコにして取り組めばいいと考える。

(松川) 卒業生に同窓会の案内を出すとかかなり多くのDMが戻ってきてしまう。深澤先生のところでは、何か工夫をされていませんか。

(深澤) 卒業生には、学校のホームページを見て下さいというぐらいしかできないですね。高等学校の場合、ある程度保護者でカバーできますが、進学してからの先は把握するのが難しいです。

(松川) やはりITなど便利な機能を使っての対応になりますかね。

5. 学生支援

慶生会クリニック

滋慶トータルサポートセンター

(今年度は、校内で週2回カウンセラーが相談室を設けている)

学生寮の設置している

学費・クラブ活動・卒後支援(技術講習会の開催6月12日)

保護者連携 保護者会の開催(4月新入生 5月/12月最終学年)

(松川) 【5-19-1】学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか

【5-21-1】卒業生への支援体制を整備しているか

【5-21-2】産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか

【5-21-3】社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか
これらについて、評価2を付けました。

(牛込) 自分が在籍しているところ成績上位者に奨学金を出すようなことがあった。今は無いのですか。学生のモチベーションアップにも繋がるので、検討してはどうか。

(松川) 予算もあるので、検討してみます。

(深澤) 6月21日の技術講習会の参加者数と感想などをお聞かせ願いたい。

(東) 参加者数は、各学科概ね20名程度で合計60名くらいになります。卒業生の総数から言えば参加者数は少ない。卒後の状況などを把握できていないなど、課題は大きい。ただ参加してくれた卒業生には、評判が良くできればそんな卒業生から広めてくれればと思う。昨年度から学内にも同窓会役員会が立ち上がり、各科の卒業生が代表となり、動き始めたところです。

(松川) 参加した卒業生に話を聞くと自分の代がどのくらい来るのか、だれが来るのかを気にする卒業生が多い。

(深澤) 同窓会気分なんでしょうね。

(濱田) 柔整2年の時、大阪にサッカーの全国大会に参加することになり、交通費や宿泊費などかなり負担していただき助かったことを覚えています。

合格祝賀会は実施するのですか。

(東) 昨年度から9月に行う技術講習会と同窓会そして祝賀会をまとめて実施しました。ところが先日行われた同窓会役員会で、祝賀会は独立して早い時期にやってほしいとの声があったので来年度からは、検討してみます。できれば3年4年の努力の成果ですので皆でお祝いしてあげたいと思います。

(濱田) ぜひお願いしたいと思います。

(松川) 続きまして教育環境ですが、海外研修は3学科ともアメリカに行っています。

また防災・安全についてですが、防災訓練も実施しており日に3回各科の時間に合わせて行いました。

さらに安否確認システムというのがあり、該当の地域で深度5以上の地震があった場合、登録しているメールに安否確認が送られることになっています。

AEDも校舎内に5台設置しており、その使用についても先月、全教職員が講習を受けています。その他、防犯カメラや夜間の自動施錠など防犯にも取り組んでいます。

【6-24-1】【6-24-2】は2を付けています。

防災訓練も毎年実施しているが、職員が多くいることを前提にしている。夜間など職員が少ない時、マネージャーがいない時など対応できるか心配がある。

(濱田) 先ほど安否確認システムのお話がありましたが、学生はよくメールアドレスを代

えたり、ラインしかしないなどあると思うが、対策は何かしているか。

(松川) 毎年、テストメールなどを実施してクリーニングしている。届かなかった人には再設定を依頼している。

(関口) このような具体的なものに対しては、さらにこれをしたなど自己評価に厳しい面もある。相対的に見て環境整備や体制そのものはできていると思う。

(深澤) 評価は3でもいいのではないかと。最低限度のことができていればいいと思う。

7. 学生の募集と受け入れ

(松川) 募集に関しては、募集要項を作成して適切に行っている。高校訪問には卒業生のポスターなどを配っている。

(関口) かなり学生募集に苦戦している学校が増えていますね。

8. 財務

(松川) このあたりは、本部機能があり問題なく実施されていると考えています。

9. 法令順守

(松川) グループ全体の課題として取り組んでいる。

10. 社会貢献

(松川) ジェフユナイテッド市原千葉との共同事業で介護予防教室を実施している。

また国際交流については、フランスのエレガントスパビューターというエステの学校が毎年2月に東洋療法を学びに来ている。これ以外での活動ができていないので2の評価をつけました。

2018年度の重点目標

【数値目標】

1. 中途退学者 27名 (3.9%)
2. 入学者数 230名
3. 収益率26%

【重点目標】

1. 入学定員を確保する
2. 新教育システムを定着する
3. 産学連携を確立する

【運営方針】

1. 入学定員を確保する

- ① 課題である「夜間部」を重点的に対策
- ② WEB広報を徹底する
- ③ 早期広報（2年生）を確実に実施する

（松川）全体的な募集は、ほぼうまくいったが理学療法士科Ⅱ部が定員を割ってしまった。その対策を前川さん説明してください。

（前川）理学療法士科Ⅱ部については、スポーツの学びができるということを明確に打ち出している。ATを取りたい学生のニーズに答えるとともに学費の面でも奨学生制度を設けて、優遇している。今のところイベント参加者も増え、今年は目標を達成できると思う。

2. 医療の学び～新教育システムの定着

- ①最新の体験型授業（アクティブラーニング、ICT 等）を「全員が」の導入
- ②「自学習の習慣」をつけられる授業へのイノベーションを実行
- ③その学習効果により「国家試験合格 100%」を達成

（松川）今年のキャッチフレーズというか「自学習の習慣」がつけられるような授業のイノベーションしようと試みている。

3. スポーツの学び～産学連携の確立

- ①姉妹校（TSR、HMS）との連携強化
- ③AT 受験や現場実習の合同化

（松川）姉妹校との連携といえば、アスレティックトレーナーの模試を共同で実施するなどがある。ATの合格率は全国平均で20%台の難関試験であるが、本校では昨年63%であった。グループ校の平均も30～40%である。

（関口）TSRは、46名の合格者を出し、圧倒的に全国1番である。本校も18名で2番であり、3番手は大阪ハイテクでした。ちなみに大学では、帝京平成が14名で早稲田が11名でした。スポーツに関わりたい学生については、響くかなと思います。

（松川）以上が事務局からの説明になります。何かご質問などがございましたら、お願いします。

各委員からのご質問・ご意見

（牛込）国家試験の受験について、昨年・一昨年の不合格者の合格率はどのくらいか。また、今年度どのくらいの合格率を目標に講座を実施しているのか。

（渡辺）一昨年の柔道整復師科の不合格者は9名で、今年全員受験しました。そのうち合格者は3名で33.3%でした。ちなみに全国の平均合格率は、16%です。今

年の不合格者は、32名でした。合格の目標ですが、全員合格が目標です。そのために合格率の高い生理学や解剖学の先生を探して講座を行っています。本気で100%を目指しています。

(牛込) しかし、普通にやっていて32名中10名だと思います。そのプラスアルファはどのようにすれば目標を達成できると考えていますか。

(渡辺) ひとつは、トップレベルの講師をお願いしているということです。さらにこの講師の方と模擬試験を開発することになっています。従来の感に頼る模試ではなく、一月ごとに弱点を見つけて新しい形でいい模試を作り実施します。

(牛込) わかりました。

(宇梶) 一つ目は昨年度不合格者をそれだけ出してシステムのイノベーションだけで足りるのかということです。もう少し具体的な対策が知りたいです。

もう一つは、就職後の関わりについてですが、企業として包括的に情報を集めているつもりですが、説明会講師の依頼が直接本人に来ているなどと聞く。組織に所属していると考えればその動きは企業として知らなければならない。合格祝賀会となればうちでは、7, 8人抜けるわけですからやはり事前に相談いただきたい。また昨年の就職説明会であった話ではあるが、我々の会社に興味を持って来た学生は音楽に関わるトレーナーをやりたいと希望があった。その学生は自分で情報を集めたそうで、学校からはその情報は伝わってなかったそうです。学生の夢を叶えることも企業の役目だと思う。面接などを実施しているのであれば、そんな情報は伝えてあげてほしい。あとこのことは、いっしょにやっていかなくてはならないことだと思いますが、卒業生は目的と目標の違いを理解していないということです。将来の目標が院長になること、独立開業することなどと言っている卒業生がいる。入社して再教育をすることになるが、在学中国家試験に合格することだけを目指して勉強することはすごく苦痛だと思う。合格は、通過点でその後の人生をどんな目的を持って生きるのかなど在学中に最低限勉強しておいてほしいと思う。

(松川) 最初の質問ですが、いろいろな取り組みがありますが、柔道整復師科では夏までは基礎科目に重きをおいて授業を進めています。またここでお話しいただいた内容などを今後活かしたいと考えています。

(関口) 昨年度は、受験のエキスパートを下の学年を担当させた。難しい試験の場合、最後に追い込むなどテクニックも必要です。ある意味、トライアルではあったが学生の人生もかかっているので失敗はできない。今年度は、3年に戻しました。

(松川) 後半の部分ですが、少しコミュニケーション不足があったようですね。

(渡辺) 最初は、担当者に依頼していましたが最近、学科の担当者が直接依頼したようだ。

(関口) これは、重要な問題でもあるので改善したいと思います。

(松川)他に何かありますか。

(濱田)最初の方で卒業生に対する業界の評価が把握できていないと評価していたが、今のようなことを言っているのか。

(松川)実際には、キャリアセンターの職員が訪問した際にちゃんとやっているかなどが中心になる。そんな活動の中で、出来ていないことなどを吸い上げてくることもある。また本日この後に行われる「教育課程編成委員会」があり、業界の方々から教育に関してさらにご意見を聞き、そこで出た意見をカリキュラムなどに反映していくことになる。もちろん今ここで出たご意見も学校運営に取り入れるなどもすることになる。

(関口)学校は卒業生の仕事領域を把握できていなくてはいけない。この時期、教育の中身が変わろうとしているのは、現場が変わっているからでそれに対応しようとしたものである。どんな風に現場が変わっているのか、学校が組織的に把握することが重要です。例えば理学療法士として就職して2年目までに技術的な部分や人間的な諸力としてこのぐらいまでになってほしいなど理学療法士の世界では6段階で作っています。個々の評価が業界の基準に照らして卒業生がどうだろうと評価ができる。基準がない業界でも、我々が積極的に関与して作り上げることが必要であろう。全体として職業教育に求められていることでもあります。

(宇梶)企業側でも報告できる材料があることは、うれしいことです。

(濱田)在校生にもここまで頑張っているなど伝えられればモチベーションが上がる。

(松川)そろそろお時間もありますので、委員会を終わらせていただきたいと思います。本日は貴重なご意見ありがとうございました。